全国翻译专业资格（水平）考试指定教材

日语笔译综合能力

总主编 谭晶华
主　编 杨诎人

2级

★全国实行 ★最具权威 ★统一认证

国家职业资格证书

人事部颁证

外文出版社
FOREIGN LANGUAGES PRESS

全国翻译专业资格（水平）考试指定教材

日语笔译综合能力

（二级）

总主编　谭晶华
主　编　杨诎人
编　委　陈多友　丁国旗　庞黔林
　　崔　勇　邱　忠　刘先飞

外文出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语笔译综合能力. 二级 / 杨诎人主编. —北京：外文出版社，2005
全国翻译专业资格(水平)考试指定教材
ISBN 7-119-03992-X

I.日… II.杨… III.日语-翻译-资格考核-教材 IV.H365.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 030121 号

外文出版社网址：
http://www.flp.com.cn
外文出版社电子信箱：
info@flp.com.cn
sales@flp.com.cn

全国翻译专业资格(水平)考试指定教材

日语笔译综合能力(二级)

主　　编　杨诎人
责任编辑　刘明珍
封面设计　吴　涛
印刷监制　张国祥
出版发行　外文出版社
社　　址　北京市百万庄大街 24 号　　**邮政编码**　100037
电　　话　(010)68320579 (总编室)
(010)68995875 / 68996075 (编辑部)
(010)68329514 / 68327211 (推广发行部)
印　　刷　北京中印联印务有限公司
经　　销　新华书店 / 外文书店
开　　本　16 开　　**字　　数**　355 千字
印　　数　0001–5000 册　　**印　　张**　16.5
版　　次　2005 年 6 月第 1 版第 1 次印刷
装　　别　平
书　　号　ISBN 7-119-03992-X
定　　价　36.00 元

版权所有　侵权必究

前言

好的译作是在熟悉原文所有词汇、语法及对文章内容、字里行间的含义和作者意图有很深理解的基础上经推敲而成的。就是说，翻译好一篇文章，既要全面理解文章的整体思想，又能准确把握文章的细节。否则，所谓的翻译只是一句空话，即使形式上能将该文译出，也只是词句的堆砌而已，不可能是成功之作。本教材就是为了打好中级翻译的这一基本功——准确理解和把握原文思想与细节的能力——而编写的。

本教材贯彻执行国家人事部《翻译专业资格（水平）考试暂行规定》的精神，按照《全国翻译专业资格（水平）考试日语笔译二级考试大纲（试行）》所规定的水平和第二条笔译综合能力中关于考试目的和考试基本要求中规定的内容而编写。具体在于加强应试考生的日语综合运用能力，重在帮助考生稳步提高阅读理解能力和解决难题的技巧。

为了能在较高难度的日语原文阅读理解上得到更多的练习和提高，本教材共收入各类日语原文48篇，按题材内容分为16课，每课由课文一（本文一）、课文二（本文二）和课外读物（課外読み物）等3部分组成。其中课文一（本文一）和课文二（本文二）为同类文章。为了内容的多样化，课外读物（課外読み物）的题材则不受此限制。

考虑到更好地理解和掌握原文细节的需要，每篇文章又分为文章解读和练习两大部分。其中文章解读部分再细分为词汇、语法、语句3个方面，用以打造好解读文章的基础。练习部分则把重点放在词汇语义、语法运用和文章理解上，检验和提高自己对该文的理解能力。

本教材只能起到指导入门的作用，欲有更大的提高和锻炼，有赖于更多的训练和实践，不断更新知识结构和扩大视野。

由于匆促编就，错讹难免，敬请读者不吝金玉，给予斧正。

杨诎人 识

2005年2月

于广东外语外贸大学

目次

第一課　旅 …… 1
本文一　旅は人生みたい …… 1
本文二　旅 …… 6
課外読み物　曠野から …… 11
第二課　自然界 …… 17
本文一　つぼみたちの生涯 …… 17
本文二　落ち葉 …… 21
課外読み物　文明が育てた植物たち …… 26
第三課　人間と自然 …… 32
本文一　身体 …… 32
本文二　子どもとは何か …… 37
課外読み物　赤道におりた宇宙飛行士 …… 42
第四課　人間 …… 47
本文一　携帯電話考 …… 47
本文二　ゲームと人間 …… 51
課外読み物　雲のゆき来 …… 59
第五課　日本文化 …… 65
本文一　日本人の心 …… 65
本文二　日本人の文化観 …… 69
課外読み物　形の美とは何か …… 74
第六課　読書と知識 …… 80
本文一　読書 …… 80
本文二　知恵と知識と情報 …… 84
課外読み物　水族館への招待 …… 91
第七課　都市論 …… 99
本文一　都市の政治学 …… 99
本文二　西洋の都市 …… 105
課外読み物　狙いと立場 …… 111
第八課　労働問題 …… 115
本文一　労使関係 …… 115

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

本文二　労働組合とは何か……119
課外読み物　広告の形而上学……125
第九課　科学について……130
本文一　科学と技術……130
本文二　自然科学とは何か……135
課外読み物　人間科学の可能性……139
第十課　自由と愛……145
本文一　自由……145
本文二　愛……150
課外読み物　連なりとしての「性」……156
第十一課　評論……161
本文一　政治と公共性……161
本文二　近代の合理主義……166
課外読み物　エゴイズムについて……171
第十二課　言語論……175
本文一　構造主義とは何か……175
本文二　ことばと国家……180
課外読み物　喜談日録……183
第十三課　小説……188
本文一　十二歳……188
本文二　坂道の自転車……193
課外読み物　地の音……199
第十四課　歴史小説……203
本文一　一茶……203
本文二　運河……208
課外読み物　「吾が古典」とは何か……213
第十五課　俳句と詩……218
本文一　俳句の精神……218
本文二　「漢詩」の心……225
課外読み物　古典論……231
第十六課　芸術論……236
本文一　芸術の無限観……236
本文二　芸術作品とは何か……243
課外読み物　雑器の美……247
付録　解答……251

第一課　旅

本文一　旅は人生みたい

日本はすみずみ(1)まで美しいところである。四季折々(2)の色彩が流れ、風景がびみょう(3)に変化する。変化のそのあわい(4)が、人の精神にも深い影響をおよぼす。精神はその時々にリズミカル(5)に変わっていき、それ(6)が人に生きる喜びを与えてくれるのだ。

山も海もさる(7)ことながら(8)、この国で最も美しいのは農地だ。雪にやわらかく覆われていた大地が、時の流れとともに(9)、少しずつぬれた黒い肌を広げていく。よく晴れた日など、ぬくまった(10)地面から白く細い糸のような湯気(11)が立つ。土の中では、微生物の働きが活発になる。その土は掘り返され、空気の通りがよくなって、新しい季節への息吹(12)がようやく始まるのだ。

もともとは山から湧き出した水が、水路を通って流れ下り、鈴のような澄んだ音を立てて田んぼに導かれてくる。風景は一瞬にして(13)変わるのだ。水によって生命が吹き込まれる。この季節(14)、私たちの大地は水の星になるのである。桜も散り、ようやく緑に染まった山に、山桜のピンク(15)が淡く散っている。そんな山が水に映り、野はにわかに華やかになってくるのである。

もちろん人の心も華やぎ(16)、野には自然に対する恋愛のような感情が満ちるのだ。生きとし生ける(17)すべての細胞が脈動(18)してくる。

この季節、私は夜の棚田(19)の光景を思い浮かべる。棚田には二株か三株しか稲を植えることのできない小さな田も漏らさず(20)、すべての田に水が張られている。鏡の破片を埋め込んだような大地の上には、満月が出ている。その月がひとつひとつの水面(21)に映っているのだ。月ほどの田に映らないというのではない(22)。まんべんなく(23)黄金の光を降りそそぐ。天上に一つとそれに田の数だけある月(24)は、ぬれもせず、減りもしない(25)。風はなく、静かな静かな風景である。この景色を眺め、この風景の中にいる私は、永遠の中に(26)たたずんでいる(27)のである。

田植えが始まると、野には人間たちのあからさま(28)な喜びの声が広がるのだ。土に働きかければ、必ずこたえてくれる。季節は毎年違い、暑い時もあれば、寒さの夏もある。自然の変化を解読し(29)、人はその年の追肥(30)の組み立てを考える。これ(31)をおこたれば、結果は見えているのだ。五十年米作りをしている人は、その五十年間同じ年は二つとしてなく、いつも一年生だ(32)と笑う。水分と肥料分をたっぷり含んだ柔らかな土が、まだ心細い(33)稲の苗の白い根をがっちり(34)と受け止める。水に沈んでいるような幼い葉は、根が吸い上げる養分と水分によって(35)立ち上がっていく。太陽も天から惜しみなく照りつける。

除草剤で一気に(36)処理するのでなければ、草取りは難儀(37)な仕事だ。雑草と呼ばれる草も、イネ科の植物が多くて、その生息(38)環境は彼らにとってまことに好ましいのである。新鮮な水はあるし、栄養分もたっぷりとある。天と地の間で生きる力(39)といえば、稲に負けるものではない(40)。稲は懸命に伸びて力いっぱい土をつかんでいるから、引っぱっても簡単に抜けない。草取りの人間の側からいえば、屈んで(41)やる仕事の上(42)、太陽が頭上(43)と水面と二方向から照り付けるので、苦しいことこの上ない(44)。こうして人の苦労を吸って、稲はすくすく(45)と育っていく。

この大地に水を均質(46)にためておく土木工事とは、どれほど大規模なことであったかと考える。もともと日本はほとんどが森林の上、起伏に富んだ山でできている。人の営みは、長い時間をかけて風景を作り変えてきた。それが私たちの歴史というものなのである。山の木を伐り根を掘り起こしただけでは、畑にはなるが、田んぼにはならない。斜面を削って棚をつくり、水が均質の深さにたまるようにする(47)。水の深さが一定でなければ、稲の成長にばらつき(48)が出て、一度に稲刈りをすることができない。収穫が不可能になってしまう。私たちの祖先は、この大工事をやり切ったのである。私たちが美しいと感じる景色の中に、この大地で生きてきた祖先たちの汗と血と涙とがしみているのだ。

一面の稲が黄金色に染まる秋は、たとえようもない(49)美しさだ。一粒万穂に稲の籾(50)が、内部に甘くふくらんだ米をはち切れそうに(51)ため、風が吹くたび澄んだ音を立てる。春の恋愛感情が、こうして秋には実ったのである。大地は必ずこたえてくれる(52)。この信頼があったからこそ、私たちは長い歴史の糸をつむいで(53)くることができたのだ。

米は命である。私たちの命をつなぐものである同時に、米そのものが種子(54)という命なのである。蒔いてていねいに世話をすれば、一粒がおむすび一個に増える(55)。そのことでまた私たちが生きていくことができるのだ。

私たちの生きているこの風景には、無限の命がある。

文章解读

本文是一篇散文，文章朴实但不失秀美，感情真挚，用了不少比喻，这些比喻句对我们理解全文很重要。

A. 词汇

1. すみずみ(1)：各个角落。
2. 折々(2)：读作“おりおり”，可作副词和名词用，意为“随时、应时、时常”。
3. あわい(4)：文语，“あいだ”之意。
4. リズミカル(5)：源自英文 rhythmical，意为有节奏的、有韵律的。
5. さる(7)：“然る”，文语，有“某”和“那样的”两意，此处为“那样的”意。
6. ぬくまった(10)：动词“ぬくまる（温まる）”的过去式，“暖和起来”意。
7. 湯気(11)：读作“ゆげ”，蒸汽，水气。

8. 息吹[12]：读作“いぶき”，气息。
9. 華やぎ[16]：读作“はなやぎ”，动词“華やぐ”的连用形，意为“热闹、活跃”。
10. 脈動[18]：读作“みゃくどう”，脉动、搏动。
11. 棚田[19]：读作“たなだ”，梯田。
12. まんべんなく[23]：普遍，无一遗漏之意。
13. 追肥[30]：读作“ついひ”，意即“追肥”。
14. 一気に[36]：“一口气，一下子”之意。
15. 難儀[37]：读作“なんぎ”，意为“困难、麻烦”。
16. 生息[38]：文语，读作“せいそく”，生长、生活。
17. 屈んで[41]：原形“屈む（かがむ）”的连用形，“弯着腰……”之意。
18. すくすく[45]：（植物长得）很快，茁壮成长之貌。
19. 均質[46]：读作“きんしつ”，意为“均匀”。
20. ばらつき[48]：参差不齐。
21. 籾[50]：读作“もみ”，稻谷。
22. つむいで[53]：动词“つむぐ（紡ぐ）”的连用形，意为“纺纱”。

B．语法

1. ながら[8]：一种造语成分，接名词后表示转折，意为“尽管……却……”、“虽然……但是……”。
2. とともに[9]：接于动词的基本形后，表示“～すると、それと一緒にだんだん”，即中文的“随着、随同”之意；接于名词后则表示“共同、一起”之意，此处为后者。
3. ず[20]：文言否定助动词（其连体形为“ぬ”），在现代日语中表示否定的中顿。
4. あからさま[28]：古语，形容动词，意思是率直，不隐讳。
5. によって[35]：前面接名词，表示以该名词为手段，媒介。要注意这与其在被动句中意思不同。
6. 上[42]：常用“～の上（に）、～した上に、～である上（に）”的形式，“加上，而且”之意。
7. ようもない[49]：前接动词连用形，表示“无法……、不能……”。
8. そうに[51]：样态助动词“そうだ”的连用形。样态助动词“そうだ”接于动词和助动词“れる（られる）”、“せる（させる）”的连用形后，以及接于形容词、形容动词的词干后，表示从外表看的样子，中文意为“好像、似乎”。

C．语句

1. 一瞬にして[13]：在句子中作副词用，相当于“一瞬で”。
2. 山桜のピンク[15]：这里指的是粉红色的山樱花或其花瓣。
3. 生きとし生ける[17]：连语。通常写作“生きとし生けるもの”。其中“と”为格助词，“し”为副助词，都起强调语气的作用。该连语的意思是“生きているすべてのもの”。
4. 月ほどの田に映らないというのではない[22]：这句话的意思是“ひとつひとつの棚田が小さいですが、満月はその中に映る余裕はある”。

5. 田の数だけある月[24]：这句的意思是："（月亮映在蓄满水的水田里）水田有多少月亮的倒影就有多少"。
6. ぬれもせず、減りもしない[25]：意思是说映照在梯田里的月亮和天上一轮明月一模一样。转而暗示水田里的水清澈透亮。
7. 自然の変化を解読し[29]：这句的意思是"人々は自然、特に季節ごとの天候の変わりを感じ取って対応すべき"。
8. 苦しいことこの上ない[44]：意思是"これ以上苦しいことはない"。
9. 一粒がおむすび一個に増える[55]："おむすび"是"捏饭团"。这句话意思就是印证"米は私たちの命をつなぐものである"。

练习

1. びみょう[3]にあたる漢字を次から一つ選びなさい。
A．微妙　B．美妙　C．美秒　D．微抄

2. それ[6]は何を指しているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．季節の変化　B．精神の変化　C．風景の変化　D．人生の変化

3. この季節[14]とはどの季節か、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．春　B．夏　C．秋　D．冬

4. ひとつひとつの水面[21]を何で喩えているか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．満月　B．黄金の光　C．鏡の破片　D．棚田

5. 永遠の中に[26]とは何を意味しているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．絶えず変化している自然の中に　B．静かな風景の中に
C．止まっている時間の中に　D．水が張られている棚田の中に

6. たたずんでいる[27]とは本文中ではどういう意味で使われているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．しばらく立っている　B．しばらく考えている
C．しばらく漂っている　D．しばらく歩いている

7. その五十年間同じ年は二つとしてなく、いつも一年生だ[32]という気持ちで取り組んでいることはどのようなことか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．この景色を眺め、この風景の中にいる私は、永遠の中に佇んでいる。
B．こうして人の労苦を吸って、稲はすくすくと育っていくと考える。

C．人の心が華やぎ、野には自然に対する恋愛のような感情が満ちる。
D．自然の変化を解読し、人はその年の追肥の組み立てを考える。

8. 心細い(33)の正しい読みを次から一つ選びなさい。
A．しんぼそい　　B．こころこまかい
C．こころぼそい　　D．しんこまかい

9. がっちり(34)と同じ意味の言葉を次から一つ選びなさい。
A．がっかり　B．かっちり　C．ぎっしり　D．きっしり

10. 生息(38)の正しい読みを次から一つ選びなさい。
A．なまいき　B．せいいき　C．いきそく　D．せいそく

11. 天と地の間で生きる力(39)について、筆者は雑草のどのような姿を取り上げて述べているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．天と地の間で生きる力は稲にも負けない様子
B．根が懸命に伸びて力いっぱい土をつかんでいる姿
C．人に引っ張られても簡単には抜けない頑強な状態
D．人の苦労を吸ってすくすくと育っていくさま

12. 稲に負けるものではない(40)の主語は何か、次からひとつ選びなさい。
A．除草剤　B．草取り　C．植物　D．雑草

13. 頭上(43)の正しい読みを次から一つ選びなさい。
A．とうじょう　B．ずうえ　C．とううえ　D．ずじょう

14. 斜面を削って棚をつくり、水が均質の深さにたまるようにする(47)の主語を次から一つ選びなさい。
A．田植えの人　B．草取りの人　C．稲作りの人　D．我々の祖先

15. 種子(54)の正しい読みを次からひとつ選びなさい。
A．じゅし　B．じゅうし　C．しゅし　D．しゅうし

16. 筆者はどのようなことから「大地は必ずこたえてくれる(52)」と述べているのか、百字以内でまとめなさい。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

本文二　旅

フォーク・ソング[1]のＴ氏は年一回ぐらい、リヤカー[2]を曳いて諸国を遍歴するそうである。諸国遍歴なんていかにも古めかしい表現だが、そういう古めかしさにふさわしい雰囲気があって、それ[3]が今日の若い人たちには奇妙に新しい風景に見えるらしい。さわやかな話[4]である。なにがさわやかだといっても、フォーク・ソングが、フォーク（常民、民俗）の世界から足を踏み外すまいと懸命にこらえている姿であり、それは当たり前だと言ってしまえばそれまでだ[5]けど、見せかけだけで通用するこれらの世界で、これ[6]はやっぱり得がたいことだと思った。フォーク・ソングの人が、舞台のスポット・ライトの世界[7]にしか住めなくなり、テレビの寵児に納まってしまった[8]という例が、あまりに多すぎるからである。Ｔ氏自身、コンサートだけで巡業していたって[9]、本当に地方を回ったことにはならないと言っている。それで、楽器やら[10]寝袋やら、当座[11]の放浪生活[12]に必要な道具一式を積み込んだりリヤカーを引っ張って、あてのない旅にでる。

そういう旅は、断然「旅[13]」と称する通過の営みではない。旅人と土地の人との出会いの連続であり、見ず知らずの者同士の豊かな触れ合い[14]がある。文字通りフォークの旅である。初めて会う人とすぐつながりができる。通りすがり[15]のおじさんやおばさんに、おはようございます、とすらすら挨拶ができる。都市の生活では考えも及ばぬ人なつっこさ[16]である。村の辻でギターを弾いて歌っていると、村の子どもたちが集まってくる。老人も物珍しげに[17]足をとめる。熊本でのこと。一人のおじいさんが最前列に陣どって[18]、三十分も一時間も聴き入っている。やがて一人去り、二人去りして、とうとうおじいさん一人になっても、まだ立ち去らない。仕方なしに歌を続けていると、おずおずと[19]手に握ったものをつき出して、少ないが取っておいてほしいと申し出た。百円銀貨が一枚。あんまりしっかり握りしめていたので、相手の体温が伝わるほど生温かかったという。

いい話である。現代が忘れかけていた[20]情景が、いきいきと残されている。この場合、もちろん金額の問題ではない。金でいうなら、ワン・ステージ[21]百円という出演料なんて、たとえ素人が相手でも失礼というものであろう。そうではなくて、Ｔ氏の“大道芸”の大道芸[22]の前に、思わずお金を指し出さずにはおれなかったおじいさんの心根[23]に打たれるのであり、それはかつて、わたし達の父祖が、門口へ物乞いに立たれるとじっとしておれなくなり、何がしか[24]の施しをしたという行為につながっている。それは旅人に対する一種の原罪感覚といったものに近かった。

今日の「旅」という言葉には、豊かさのあらわれといった語感がある。少なくとも生活に満ち足りた人びとが、その世界を拡大しようとしている風景に見える。けちけち旅行とか無銭旅行という試みがことさらに話題にされるのもこのあらわれであって、旅とは本来、ふんだんに[25]金をかけたものでなければならないという大前提があるからで、そうした認識を背景に、猫も杓子も東へ西へと繰り出し[26]、勢い余って世界の観光地へ日本人が殺到する。いい時代にめぐり会えたものである。

昔、といっても生産力が向上する以前の一般庶民の暮らしの中において「旅」という言葉

のもつ響きは、決してそんなもの[27]ではなかった。とりわけ、水稲耕作を軸とした定着生活による自営という厳しい枠の中で生きる農民にとって、「旅」という行為は、定着という安全からの離脱であり、もっと言うなら、せめて雨露をしのぐ程度でも一応の安寧を約束された世界[28]から苛酷な風雪の中へ否応なしに[29]連れ出される非定住への旅立ちであった。

天保七年（一八六三）、仙台藩に大凶作があった。このとき刈田郡七ヶ宿町の事と伝える記録は、悲惨の一語に尽きる。秋になって食糧不足が深刻になると村の人びとは山に入ってわらびの根を掘り、粉にして食べたが、そのうち体力が衰えて、かがんで作業することができなくなり、俵を下げていって、尻餅をついて掘った[30]という。この村に小椋の本家という六人家族があったが、まず母親とおばあちゃんが餓死し、残された四人は家屋敷をそのまま村を脱け、隣国の最上へ流れて行った。乞食の旅である。

しかし、最上も流れ込んでくる乞食にまで食べさせる余裕はなく、追放令[31]を出したので、仕方なく小椋の四人も元の村へ戻ってくる。このとき峠でおじいさんが餓死、残った三人は死体を葬る気力もなくそのままにしてくるが、留守中に屋敷へ勝手に入り込んでいたよその者が、いくら凶作といっても肉親の死体をそのままにしてきたのはけしからん[32]と世論をあおり、今に[33]捕手が来ると脅かしたので、小椋の三人は再び乞食の旅に出る。このときの隣人との会話が沈痛である。「どこさいくの」「おらどこさえぐかわかんねえの」。その後、この三人の行方はわからないという。これが昔の旅人の原風景であった。

文章解读

这是一篇夹叙夹议的文章，文章指出了“旅”这个词的含意在生活富庶的今日世界与在饥寒交迫的从前社会两种语境下的不同。文章中运用了不少拟声拟态词和俗语，语言比较生动。全文结构较随意，属于感想性质的文章。

A. 词汇

1. フォーク・ソング[1]：源自英文 folk song，指常用吉他弹唱，旋律朴素，内容多为大众情感，对社会的批判等的民谣，民歌。
2. リヤカー[2]：rear car，这是由日本创造的英语外来词，英语的说法为“two wheeled cart”，一种两轮车，由自行车或人力牵引。
3. 人なつっこさ[16]：“人なつっこい”日文意为“すぐに人と慣れ親しみやすい”，中文意为“人情味”。
4. 物珍しげに[17]：日文意为“なんとなく珍しそうに”，中文意为“似很稀奇地……”。
5. ワン・ステージ[21]：one stage，此处中文意为“一台戏”。
5. 追放令[31]：读作“ついほうれい”，意为“驱逐令”。
6. 今に[33]：为“今からあまり遠くない時に”意，中文意为“眼看就……”，和“まもなく”有近似之处。但“まもなく”通常指确信即将发生的事情，而“今に”可能指不确信的事，可能是推测，希望，意志等。

B．语法

1. たって[9]：表示逆接的助词，由“たとて”转成，接活用词的连用形下，中文意为“即使……”、“尽管……”。
2. やら[10]：副助词，常用“～やら～やら”的形式，表示“～や～など”、“～たり～たりして”，用于列举若干事物中的某几种。
3. 忘れかけていた[20]：接尾词“～かける”接动词及动词型助动词的连用形后，表示有意识地开始某个动作或进入某个状态，“～かかる”也可表示动作或状态的开始，但多表示偶然的，非意志的动作或状态。

C．语句

1. 舞台のスポット・ライトの世界[7]：“スポット・ライト（spotlight）”的中文意为“舞台灯光”，“舞台のスポット・ライトの世界”是指演艺世界。
2. テレビの寵児に納まってしまった[8]：这句话指（本来不应该是电视宠儿的民谣）被招安成了电视宠儿。“おさまる”此处指本在某个领域外的东西被纳入了这个领域。
3. 思わずお金を指し出さずにはおれなかったおじいさんの心根[23]：此句意为“不由自主地递出钱来的这位老爷爷的心肠”。“心根”意为“心情、内心”。
4. せめて雨露をしのぐ程度でも一応の安寧を約束された世界[28]：此句意为“哪怕只是这样一个世界，这个世界好歹被保证了一点点的安宁，可以遮风蔽雨。”
5. 俵を下げていって、尻餅をついて掘った[30]：此句意为“提着袋子去，一屁股坐在地上挖掘”。

练 习

1. それ[3]とは何を指しているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
   A．リヤカーを曳くこと　　B．フォーク・ソング
   C．古めかしさにふさわしい雰囲気　　D．諸国遍歴

2. さわやかな話[4]とあるが、ここでいう“さわやか”とはどういう意味か、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
   A．てっきりした　　B．すがすがしい
   C．ふしぎな　　D．ありふれた

3. それまでだ[5]とはどういう意味か、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
   A．そこまでだ　　B．それでおわりだ
   C．それ以上だ　　D．そのところまでだ

4. これ(6) とは何を指しているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．常民の世界から足を踏み外すまいと懸命にこらえている姿
B．見せかけだけで通用する世界
C．常民の世界から足を踏み外すまいと懸命にこらえている姿が当たり前だということ
D．常民の世界

5. 当座(11)とは本文中ではどういう意味で使われているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．至るところに座る　B．当地　C．本当の座　D．即刻

6. 放浪生活(12)とは本文中ではどういう意味で使われているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．さまよい歩く生活　B．気ままに振舞う生活
C．浪人生活　D．海に浮く生活

7. 旅(13)は、たとえばどのようなものか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．安住を放棄した漂泊の旅
B．経験を積むための修行の旅
C．生活の豊かさを満喫するための旅
D．人生の満足度を誇示しようとする旅

8. 見ず知らずの者同士の豊かな触れ合い(14) のようなありさまを、この後で、筆者は何と評しているか。文中より抜き出して記すとすれば、次のどれが当たるか、もっとも適当なものを一つ選びなさい。
A．現代が忘れかけている情景　B．豊かさの現れといった語感
C．定着という安全からの離脱　D．一応の安定を約束された世界

9. 通りすがり(15)とは本文中ではどういう意味で使われているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．たまたま通りあわせること　B．ゆききすること
C．どこかで集まること　D．通ろうとすること

10. 陣どって(18)とはどういう意味か、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．ためらって　B．とまどって
C．どどまって　D．場所を取って

11. おずおずと(19)とは本文中ではどういう意味で使われているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。

A．おのずから　　B．興味津々
C．おそるおそる　　D．ゆっくりと

12. "大道芸"の大道芸(22)はどのような意味合いを込めたものか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．庶民の卑俗な興から生まれた芸を、その卑俗さを誇張して演じたこと
B．流浪の日々の糧を得るための芸を、まさにそのために演じてしまった
C．路上で演ずるように作られた芸を、立派な芸として感動的に演じたこと
D．流れ者が演じてきた庶民的な芸を、流れ者そのものとして路上で演じたこと

13. 何がしか(24)とは本文中ではどういう意味で使われているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．ある程度　　B．なんでもかんでも
C．なにがなんでも　　D．なにか

14. ふんだんに(25)とは本文中ではどういう意味で使われているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．でたらめに　　B．いいかげんに　　C．大量に　　D．頻繁に

15. 猫も杓子も東へ西へと繰り出し(26)とはどういう意味か、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．くだらないものでもいろいろなところを見て回り
B．だれもかれも東へ西へと勢いよく出かけ
C．普通の人でも世界にあしをだし
D．猫のようなひとさえも世界中にお金を振り回し

16. そんなもの(27)は何を指しているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．豊かさのあらわれといった語感
B．生産力が向上した後の一般庶民の暮らし
C．ふんだんにお金をかけてはいけないという認識
D．厳しい枠

17. 否応なしに(29)とは本文中ではどういう意味で使われているのか、もっとも適当なものを次から一つ選びなさい。
A．応じなくても　　B．否認したり応じたりせずに
C．是非を言わせずに　　D．嫌でもかんでも

18. けしからん(32)とは本文中ではどういう意味で使われているのか、もっとも適当なものを

次から一つ選びなさい。

A．常軌を逸している　　B．不当である

C．感心できない　　D．はなはだしい

19. 本文の内容と一致していないものを次から一つ選びなさい。

A．旅の原型は、現代の物見遊山の旅とは根本的に異なった、あてどない漂泊であった。

B．天保の大凶作の記録は、現代においても旅人を迎える側の意識への一つの見方を提供する。

C．フォークの世界から生まれた芸は、その現場で演じなければ、ほんとうに生きてこないと思われる。

D．流浪の旅芸人になりきることが、現代においても、芸人と土地の人とを深い心のきずなで結びつける唯一の条件である。

課外読み物　　曠野から

西アフリカの住民の祖先が、いくつかの重要な栽培植物をつくりだしたことは知られているが、しかし、これらの作物も、他の、アメリカ大陸から奴隷貿易時代(1)にもたらされたとうもろこしや、落花生、東南アジア系の稲にしても、その後の品種改良や栽培法の改善の努力は行われなかったようである。主作物のもろこし、ひえの類（これらも、いまアフリカで栽培されているものは、アフリカ大陸原産である。アフリカの中のどこが起源地かについては議論があるが）も、とうもろこしも稲も、みな同じように、ただあたり一面に小さい穴を掘って土をかけて(2)おき、うまく育たなければ、またしんぼうづよくまきなおす(3)だけだ。耕地をみてまず感じることは、同じ畑でも作物の生育やみのりにひどくむら(4)があることである。そしてどの作物も、日本やフランスで私が知っている、それらに対応する作物からみたら、くらべものにならないくらい貧弱(5)なものだ。日本やフランスでは、農民というのは、農法に関しても、自分の作っている作物の品種に関しても、みなひとかど(6)の専門家であり、熟練者であり、少なくともそうであろうとする熱意にみち、自分の使う農具は大切に手入れをする。ここの農民には、そういった気組み(7)がまったく感じられない。農耕の様子はくりかえし見、みようみまね(8)でやらせてもらったこともあり、私自身もここのやり方でもろこしやひえの畑をつくっているが、それは炎天下(9)のつらい作業ではあっても、決して熟練を要する仕事ではない。果樹にしても、フランス人は、つぎ木をして、肉が厚く繊維の少ないマンゴーをつくったが、土地の大部分の人があいかわらずとっているのは、種子が大きくすじばかり多いちっぽけなマンゴーである。しかも人々は改良されたものに価値をみとめ、それを賛美する。それでいて、自分たちは、それまで通りのものに甘んじている(10)。私は、土地の子供が、ドンアーガ(11)の実のさやに詰まっている黄色い粉を、よごれた水でこね(12)、指につけて大事そうにしゃぶったり、大の男が貧弱な落花生を、なまのまま、さも(13)うまそうに

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com